

2024年度 トピックス 2

<環境ESD演習Ⅱ> フィールドスタディ

今年度の副専攻「環境ESDプログラム」における特別科目「環境ESD演習」では、島原半島を訪れ、現地の自然環境、歴史、食文化などについて調査を行いました。

島原半島は海底火山の活動によって形成された自然豊かな地域であり、その地形的特性や歴史的背景は多様な魅力が詰まっています。演習では、現地の貴重な水資源、噴火災害の遺構、さらにはユネスコ世界文化遺産に登録された潜伏キリシタン関連遺産を視察しました。これにより、島原半島に暮らす人々がどのような歴史の中で生活を築いてきたのか、また噴火災害をはじめとする自然災害に対してどのような対策を講じてきたのかについて、2日間にわたり学びを深めました。

今回の調査・学習を通じて、地域の自然環境と文化、そして防災意識の重要性を実感するとともに、環境ESDの視点から持続可能な地域づくりへの理解を一層深めることができました。

スケジュール

本プログラムは **事前学習・現地学習・事後学習** の3段階で実施しました。

01 事前学習

毎週火曜日2限に自主勉強会を実施し、島原半島の自然や歴史等についてHPや文献、動画教材を活用して学びを深めました。

02 現地学習

2024年
12月7日（土）～
12月8日（日）

03 事後学習

環境 ESD 演習Ⅱ授業内にて成果発表、また高校生を対象とした島原半島に関する動画教材を作成しました。

現地での活動内容

(2024年12月7日（土）～12月8日（日）)

12/7
土

- ① 千々石展望台に到着し視察および動画撮影。
- ② 有馬キリシタン記念館にてキリスト教伝来の歴史及び島原・天草一揆について学習。
- ③ 原城跡にて視察及び動画撮影を行った。
- ④ 浜の川湧水観光交流館および周辺地域にて地域の水資源に関する視察。
- ⑤ 島原一番街アーケードで湧水及び水資源に関する視察。



12/8
日

- ① 島原城及び武家屋敷にて視察。
- ② がまだすドームにて普賢岳噴火活動の実態等について学習。
- ③ 土石流被災家屋保存公園にて、被災家屋の視察。
- ④ 大野木場砂防みらい館にて、噴火災害対策工事の過程を学習。



参加学生のコメント

経済学部 経済学科 2年 音琴 綾人さん

私は島原半島とキリスト教との繋がりについて学びました。島原・天草一揆が島原半島にて、天草四郎が中心となって、キリシタンを含む領民が起こした一揆ということは知っていました。今回、有馬キリシタン遺産記念館や原城跡を訪れて、そもそもなぜキリスト教が島原半島に持ち込まれたのか、そしてどのように広がっていったのか、島原半島とキリスト教の繋がり歴史を学ぶことができました。島原半島とキリスト教の繋がり歴史には、島原のキリシタン大名の有馬晴信や天正遣欧少年使節によるキリシタン史の「光」と禁教令によって行われたキリシタン弾圧や松倉勝家が行った悪政による被害、島原・天草一揆などの「影」がありました。また、原城跡を訪れて、島原・天草一揆の際に破壊された痕跡を目にしたことで、1637年に天草四郎を領主としてキリシタン約3万人と幕府軍約12万人が実際に戦った島原・天草一揆が、実際にこの地で起こったということを実感するとともに、より理解を深めることができました。

今回の島原フィールドワークを通じて、歴史の点と点が繋がって線になったときの感動が忘れられなかったので、今後はジオパークに認知されている各地の文化・歴史的一面を学習していきたいです。



法学部 法律学科 2年 寺西 生斗さん

私は島原フィールドワークを通じて「今の生活は当たり前でないことそして自然の脅威」について学ぶことができました。私はこれまで火山や噴火について深くかかわることがなく、噴火による被害の様子も想像できませんでした。しかし今回、雲仙・普賢岳の噴火に関する施設を訪れたことでその歴史や当時の様子を学ぶことができました。普賢岳の噴火により発生した火砕流は溶岩の塊や火山灰などがなだれのように流れる現象で43名の尊い命を奪いましたが、それが約1万回発生したことに驚きました。またその後、少量の雨でも発生した土石流は多くの家屋に被害をもたらしました。しかし、人命に影響がなかったことは当時の住民の懸命な避難活動による結果であると感じました。この雲仙・普賢岳の噴火は平成初期に発生しており、遠い昔話ではない、これから発生する可能性もゼロではないことを実感しました。雲仙・普賢岳の噴火は自然の脅威が表れた出来事であったと学びました。

火山がもたらす恵みには温泉や湧水がありますが、裏には噴火による被害もあります。その自然の恵みを享受しつつ、自然と共存していかなければならないという気持ちが今回のフィールドワークを通じてより一層深まりました。

地域創生学群 地域創生学類 2年 黒肥地 亮太さん

私が島原フィールドワークで学んだことは、「人と火山の共生の面白さ」と「地域の特徴を知ればその場所がもっと好きになる」ことです。実際に島原へ行ってみると火山の恩恵を沢山受け取っており、それらを昔から様々な形で利用して共生をしていた人々の工夫にしている姿を学び印象は大きく変わりました。中でも、浜の川湧水という場所は深く印象に残っています。ここでは、湧き出る水を使って服や皿の洗い場として利用されています。ここの水は年中13度なので、「冬は暖かく、夏は冷たい」という地元の方の話に驚きました。そして、近くのお店ではこの水を料理に使っており、実際に食べてみて、とても美味しかったです。

島原独特の水が溜まりやすく、火山によってできた地層と江戸時代の噴火に伴う地震によって、この湧き水が出てきました。今回は「火山との共生の工夫」と「なぜ、このような土地が誕生したのか」という二つを知る事で、とても島原が好きになりました。私は今後、地域の中で活動する際に今回の島原フィールドワークの様に、地域の土地の成り立ちや人々がどのように生活してきたのかを知ることに力も注ぎたいです。